

「地域づくり人養成講座」を通じた人材の育成と地域づくり

愛媛大学社会連携推進機構 教授 前田 眞



はじめに

この原稿をまとめている最中に、愛媛県をはじめ西日本という広い範囲で豪雨災害が発生しました。被災をされた方々には、謹んで哀悼とお見舞いを申し上げます。

今回のテーマは、地域住民の皆様が主体的に地域づくりに取り組んでいけるように、あの手この手で地域住民をエンパワーメント（個人や集団が本来持っている潜在能力を引き出し、湧き出させること）することによって、地域がどのように変わってきたのかについてです。今回の豪雨災害で、時間をかけて積み重ねてきたものが水泡に帰ってしまったことが、多々あったように思っています。そんな状況の中で、さらに地域づくりに向けてエンパワーメントしていくことが必要であると思うものの、今はその時期ではないのかもといった葛藤の中で、この原稿をまとめています。ただこのような状況だからこそ地域づくりは必要で、ひとりでは立ち上がれなくても、仲間とともに、もっと周りの方の応援があれば、立ち上がっていけるのではないかと思いながら、稿を起すことにします。

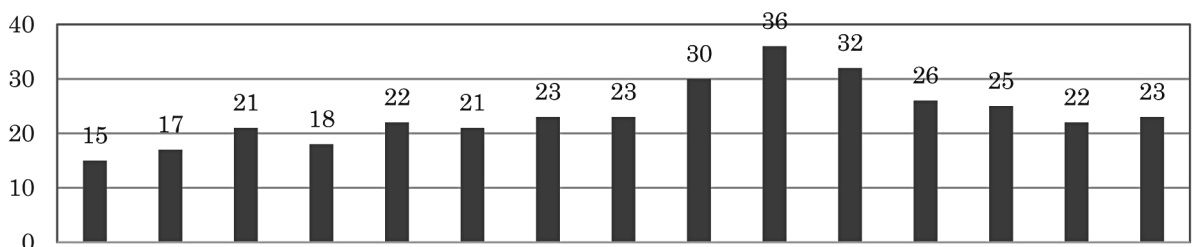
今まで愛媛県やえひめ地域政策研究センターが取り組んできた事業は、「まちづくり活動アシスト事業」など多種多様な事業がありますが、本稿では「地域づくり人養成講座」を中心に進めていく事とします。

1. 地域づくり人養成講座とは

地域づくり人養成講座は、愛媛県内の地域づくり活動の中心となって活躍していくリーダーを養成することを目的とした講座です。講座を通じて、県内各地の地域づくり実践者と交流し、将来にわたり幅広い地域づくりネットワークの構築を図っています。記録に残っている平成16年度以降で見ると354人の受講生を排出しています。

地域づくり人養成講座では、それぞれの地域でまちづくり活動を展開している人たちに会い、話を聞き、現地を体感することにより、その地域ではどんな課題があり、どのような方法で解決に向けて取り組んでいるのかを共有するとともに、それぞれ地域の人たちと交流するプログラムを実践しています。まずは、まち歩きから始まります。まちの宝もの（まちづくりの種）に気づくことが大事です。宝ものとは、今のままで活用できるもの、地元の人たちには当たり前すぎて気が付かないもの、外からの視点だと気が付きやすいものです。また、磨けば光るものは見つけるのが厄介です。どう見つけていくのか。そのポイントは、そこにしかないもの、特徴があるものなどで見分けていきます。何を食べているのかも重要な要素になります。たくさんのまちをみて、感じる力を養っておく必要があります。さらに、人の気持ちや風

(人)



地域づくり人養成講座受講者数

習、言葉、技など目に見えないものもまちの宝ものとして重要です。そういうものに感じる力を養っていくことが大切です。私の場合は、写真を撮ることや俳句を学ぶことによって、季節、風、光、香り、音など身の回りに起こっていることに関心を持ち、感じ取ることができるようになりました。普段自分の周りにいない人たちと話すことも有効です。

また、このように蟻の目でまちを見ること以外に、海、山、川、道路などの地理的条件を見ていくとまちの基本的な構造が見えてくるようになります。加えて、歴史的な背景を学び、過去に起きたことに対してどのような対応をしたのかなども、まちづくりに役立つ種になります。このように鳥の目になって大きくまちをとらえることも大事です。

地域づくり人養成講座では、一日という限られた時間を使って、蟻の目や鳥の目になって地域を感じる力を養成しています。

2. 地域づくり人に求められる人材

地域づくり人養成講座では、地域づくりに必要な新しいリーダー像の育成にも努めています。

主に次の3つのタイプの人物像が想定されます。

- ① リーダーシップを発揮できる人
- ② プロジェクトの推進能力のある人
- ③ 中間支援の能力を持つ人

(1) リーダーシップを発揮できる人

誰かが「やろう！」と言い出さない限り、子供の遊びも地域のお祭りも始まりません。よく誤解されるのが「会議がスムーズに進むような司会や進行の上手な人」がリーダーであるということ。それは「ファシリテーター」の仕事であり、リーダーの役割ではありません。それでは「リーダー」には何が必要なのか？「これをやりたい！」「実現したい！」というその想いを絶えず持ち続け、周りの人たちの共感を呼び起こし、その気にさせ、チームとして動いていけるようにして、強力なエンジンを生み出すことです。さらにもうひとつ、「リーダー」に忘れてはならない必要なことがあります。それは「実践力」です。強い想いを抱いているだけや、想いを語っているだけではただの夢物語に終わってしまいます。実現するための青写真を描いたり、評価したりすることに加えて、

メンバーの個性に応じた役割を見いだすことなども重要なリーダーの役割です。

ア. チームをつくる

グループやチームは、よそから与えられるものではなく、リーダーがつくりあげるものです。

イ. メンバーからアイデアを引き出す

半分以上の余白を残した戦略には、メンバーも自由に絵が描きやすいものであり、そういったチームでの協働作業を楽しみながらアイデアを引き出します。

ウ. チームを盛り上げる

チームを鼓舞するためにまず必要なことは、夢やビジョンを見える化し、内容を変えずに表現を変えて、何度でもメンバーに語りかけることです。

(2) プロジェクトの推進能力のある人

それぞれの夢やビジョンを実践していく力のある人が求められます。専門性を持った人たちとチームをつくらせてリーダーチームで実践していければいい。一般的に地域づくりの中心になるリーダーは、このタイプの人が多いようです。

(3) 中間支援の能力を持つ人

中間支援組織とは、多様な関係権利者に向けて、共通の目標を共創し、権利者の得意技や役割をつなぎ、巻き込み、共に行動し、サポートを行う組織のことであり、以下のような機能が求められます。

ア. ネットワーク機能

中間支援組織の基本的な役割として、特定テーマや関連する情報の共有化や情報交換、課題解決への相互支援などがあり、個別の活動団体等のネットワーク化を図る必要があります。

イ. コーディネート機能

ネットワーク機能を活かして、地域づくり活動団体と行政、多様な主体間の連携・協働を実践しつつ、合意形成やマネジメントなどのスキルを提供する役割があります。

ウ. 提言機能

協働の事業スキームを組み立て、協働にふさわしい業務委託方式のあり方、協働事業を促進する条例や指針などの仕組みづくりなど、地域づくりの基盤となる環境づくりに向けた提言等の役割があります。

エ. 資金支援機能

資金調達については、地域づくり事業のあらゆるステップで求められます。最近では、助成金や補助金以外にクラウドファンディングなど多様な手法があり、それらを適切に導入していくための役割があります。

オ. 協働型地域づくりの実践

今までの地域づくりにおいて、行政は、誘導・調整など大きな役割を担ってきました。しかし、地域ニーズの多様化・増大により、行政による地域づくりだけでは不十分であり、協働の必要性が叫ばれる中で、住民組織による地域づくり活動の重要性が増してきています。このような地域づくりの当事者が、足を一步踏み出すことが求められています。

3. 地域づくり人養成講座の意義

こうした能力・姿勢を必要とする人材が育っていくためには、各地域で行われている地域づくり活動の「経験」と「知識や情報」、「課題」などを集積することによって生みだされる「地域づくりノウハウ」を共有する必要があります。それらを相互に関係付けることによって生まれる、新しい「地域づくり力」の形成が重要となります。地域づくり人養成講座は、これらの能力を持つ人の養成を目的としています。どの程度まで達成できたかは、講座受講生の活動をフォローアップしていくことによって見えてきます。

受講生の講座修了後の活動状況は、地域住民として、或いはNPOのメンバーとして現場でまちづくり活動に参画していたり、行政職員としてまちづくり活動を支援していたり、地域おこし協力隊として地域課題解決活動に従事していたりします。また、学生の地域学習の場で活動されている方もおられます。

受講生の多くの皆さんが、校長だったり、事務局を担ったり、メンバーのひとりとして係わっている伊予市双海町にある「まちづくり学校双海人^{ふたみんちゅ}」では、ビジネス的手法を用いた6次化、居場所づくりといった地域福祉課題の解決、学校存続と空き家問題の解消をコラボさせた移住事業など、多様な活動を展開し、成果を上げています。

また、受講生であり地域おこし協力隊でもある方は、広田地区の活性化に向けて活動している住民組織の「元気・ひろた」を考える会や、砥部町の民間組織である「砥部みらい会議」において、中心メンバーとして活動され



移住交流で学校を救え

まちづくり学校双海人の様子

ています。砥部みらい会議では、木育に焦点を当て、おもちゃ美術館の設立・運営を目途に、まずは木育に関する理解や共感を深めようと「木育がっこう」を定期的開催しています。そこでは、木に親しめるおもちゃを楽しんだり、箸や木をつかった楽器、ストラップ等の製作体験の提供、木に関する得意技を持っている人たちの協働で、イベントを行っています。ここでも、おもちゃ美術館を軸とした地域づくりとして、イベントを目的と



砥部みらい会議木育部会のイベント

しないで、手段として活用する地域づくりが展開されています。

このような活動が、何もなくて、人がどんどん減っている地域においても、地域プライドを生み、それらが集積することによる地域ブランドの形成にもつながっています。

ちなみに、地域おこし協力隊の皆さんには、大勢の方に受講していただいておりますが、それぞれの地域で定住に向けて様々な活動をされています。例えば、内子という地域特性を活かして、単に観光に来るだけではなく、内子と関係を持ってもらい、今後も内子を応援してもらえる人を増やすため、コミュニケーションを主要な資源とした「古民家ゲストハウス&バー 内子晴れ」を開業させるなど、地域プライドを通じた地域の活性化に向けて頑張っておられる方もいます。



古民家ゲストハウス&バー 内子晴れ

さらに、地域おこし協力隊ネットワークで相互扶助的な支援を呼び込み、地域を超えて愛媛プライド、愛媛ブランドの形成に取り組まれておられる方もいます。これらの地域おこし協力隊による事例は、6次化による起業なども含めて、各地域十指にあまるものがあります。

4. まとめに変えて

地域づくり人養成講座では、様々な人材育成の機会があります。このような学びの場があることで、様々な人たちと知識や知恵を出し合うことができます。それらの知識や知恵を、みんなで、背中を押し合いながら、小さな社会実験を重ねていくことで、作られていくものやサービスがブランドになっていくだけでなく、それらが共感を呼び派生していくことによって地域ブランドにつながっていくなど、大きな波及効果を生み出すことに

なっています。

このような人材育成の仕組みは、活動している人たちが、知り合い、話し合うことによってネットワークを形成し、孤立しない環境をつくっていること、他の地域でのノウハウを共有して、連携して愛媛全体が良くなることにつながっていること、困ったときに相談できる人が周りにたくさんいることなど多様な効果があるといえます。今回のような豪雨災害に際しても、他地域の地域づくり人による支援体制が機能しているように思います。このように連携・協働から生み出される総合力が再び地域を興していくことを祈念しています。

Profile 前田 眞 (まえだ まこと)

国立大学法人 愛媛大学 社会連携推進機構
教授

昭和28年、八幡浜市生まれ。

広島工業大学工学部建築学科在学中、山口県の漁村を調査したとき、密集し住んでいてプライバシーがない中でも、お互い分かり合ったうえで暮らすおらかさに「理想の世界」を感じる。

大学卒業後、コンサルタントとして広島や松山の会社で働き、平成4年に独立して邑都計画研究所を設立。再開発の仕事で現地スタッフと動き、話し合いに参加して、地元住民は理屈を言っても動かないことに気づき、以来、地元住民と一緒に地域計画づくりを行っている。

現在は、愛媛大学において地(知)の拠点整備事業における地域連携コーディネーターとして地域課題の解決に資する人材育成に取り組んでいる。